

キャンパス散策（筑波大学）



校章 五三の桐

筑波大学は、明治5年に設置された師範学校以来の130年を超える伝統と、昭和48年に新構想大学として発足した新しい歴史を併せもつ大学です。文・理・教育・体育・農の5学部もつ前身の東京教育大学の実績を受け継ぐとともに、工学や医学の分野も加え、さらに平成14年には図書館情報大学との統合も実現させ、幅広く多様な学問分野を有する総合大学として発展してきました。

筑波大学の位置する筑波研究学園都市は世界でも有数の知の集積地で、日本の最高



筑波大学中央口

水準の研究機関と連携して、質の高い研究・教育を行うことが可能です。また、首都圏に位置しながら豊かな自然環境に恵まれ、広大なキャンパスに大規模な学生宿舎を擁しており、国内外の多様な出身地の学生が集まっています。さらに東京にもキャンパス（有職社会人のための夜間大学院など）があり、全国に誇りうる特色・実績を有する11校の附属学校も擁しています。

■広大な生活一体型キャンパス

筑波キャンパスは、関東の名峰、筑波山の麓に位置し、その敷地は南北6キロ、東西2キロに広がっています。この広さを生かして、日本一ともいわれる体育関連施設や農場、馬場などを有する一方で、キャンパス内の移動は主にバスと自転車に頼ることになります。平成17年に、それまでの学内バスに代わって、キャンパス交通システムが導入され、つくばエクスプレス線つくば駅を発着点とし、キャンパス内を1日約140便運行している路線バスに、学生は年間4,200円の利用料で自由に乗降できるようになりました。学内の動線はキャンパスを南北に横切るいわゆるペデストリアンですが、ここは歩行者だけでなく、自転車もたくさん走っています。始業前や休み時間には、ペデに自転車の渋滞が発生するほどです。自転車にからむ事故も起こっていることから、歩行者との分離を図る「自転車専用道路」の構想も出てきています。



キャンパス交通システム循環バス



平砂学生宿舎



体育総合実験棟 (SPEC)



農業技術センター農場より筑波山を望む



広いキャンパスを自転車で走行 (桐葉橋)

キャンパス内には60棟4,000戸を誇る学生宿舎があります。学部1年生の7割近く、留学生の約4割がここに居住しており、全国津々浦々から、そして世界から集まった若者が国際色豊かなコミュニティを形成しています。上級生になると、大学の周りのアパート・マンションに住む学生が多くなりますが、その地域まで含めて、学住近接の広大なキャンパスと見ることもできます。

■ クラス制度と学生組織

本学では開学当初から、20人の学生に教員1名が担任となるクラスが編成され、学生生活に関する事項を学生に伝達・周知する機能をはたすとともに、学生間および教員と学生の人間的交流の場となってきました。とくに新入生に対しては、ク

ラス毎に「フレッシュマン・セミナー」が実施され、きめ細やかな導入教育が行われています。クラスはまた、学生組織の母体であり、学生の意向反映の場ともなります。

筑波大学の学生組織の特徴は、クラス、学類・学群、全学のそれぞれのレベルにおいて、学生による会議が構成されるところにあり、クラス代表者会議は学類長や学群長と、全学学類・専門学群代表者会議は学長や副学長と、連絡会や懇談会を催し、交流を密にしています。



「スチューデントプラザ」

■学生支援の中心～スチューデントプラザ

学生生活や就職活動に関する総合的な学生支援を行うことを目的として、平成19年に大学のほぼ中央に位置する第一エリアにスチューデントプラザが創設されました。ここでは、学生生活に関する各種の相談、キャリア支援・就職支援に関することを始め、経済支援（授業料免除、奨学金、アルバイトなど）、学生宿舎、課外活動、福利厚生施設、研修施設等にかかわる対応窓口が揃っています。

■盛んな課外活動

本学では課外活動がたいへん盛んです。井原選手、中山選手を輩出したサッカー部や谷本歩実選手の出した柔道部など、全国的、世界的に活躍する運動部だけでなく、文化系や芸術系サークルも含めて、約230の課外活動団体が存在し、盛んな活動が行われています。学生の約7割がなんらかのサークルに所属しており、そのうちの9割が活動に満足しているとの卒業時のアンケート結果もあります。



総合交流会館展示

■学生支援GP

平成20年度の「学生支援GP」に、本学のプログラム「共創的コミュニティ形成による学生支援～学生・教職員が一体となった新たな自主的活動の創生」が採択されました。この取組みは、人材データベースを構築して学生と教職員の各人の特技や関心について検索可能にし、これを活用してメンバーを募りながら、学生自身の発案による多彩な企画を実現したり、また教職員が提案した企画に学生の参加を促すという内容のものですが、この仕組み全体を「つくばアクションプロジェクト（T-ACT）」と名づけ、すでに活動を開始しています。

学生と教職員が参加し、警察にも協力を求めて行われた「自転車の無灯火運転防止キャンペーン」、卒業生などが残した使える家具や家電用品を回収して、新入生にその物品を提供する「エコサイクル」、「筑波大生による首都圏高校生向けの大学説明会」など、自主的活動が次々に展開されています。



T-ACT 無灯火防止キャンペーン